

(10) 四 国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

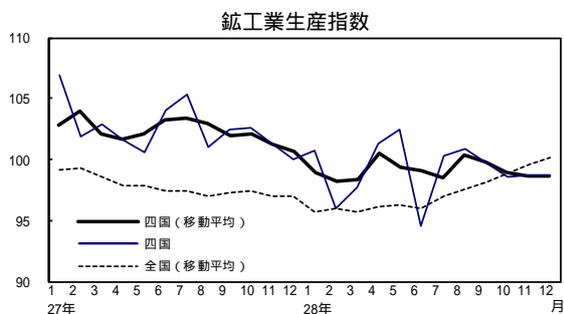
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 28 年 11 月)	今回 (平成 29 年 2 月)
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	<u>弱さがみられるものの、緩やかな回復基調</u>
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、足踏み	<u>足踏み</u>
住宅建設	増加	<u>大幅に増加</u>

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

10～12月期には、化学は医薬品等が増加した。電気機械は、電子部品の生産が堅調なことなどから増加した。食料品は、清涼飲料等が減少した。はん用・生産用機械は、固定式クレーンの納期のタイミングなどから減少した。非鉄金属は、電気金等が増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
化学	22.9	10.2	5.8	21.3	12.1	8.1
電気機械	15.8	3.2	1.6	1.1	2.5	2.6
食料品	10.5	0.1	2.6	2.0	6.7	6.0
はん用・生産用機械	10.0	7.3	16.1	28.9	7.2	0.2
非鉄金属	8.0	2.3	3.0	1.4	7.0	12.5
鉱工業	100.0	0.8	1.6	1.2	0.1	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10～12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 22年 = 100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

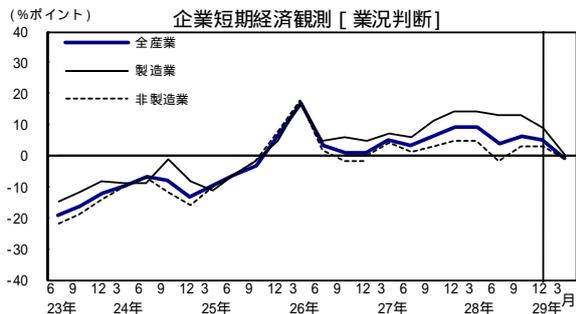
2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

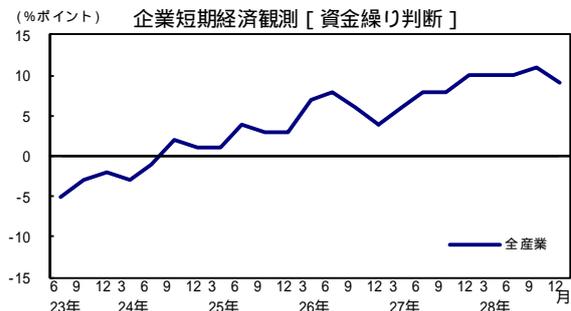
(10) 四国

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

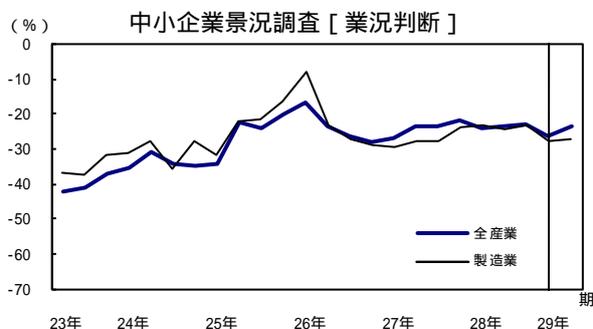
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年3月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

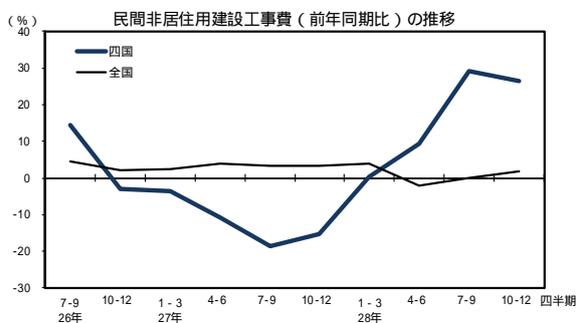


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「受注量は確実に増えてきており良くなっていると思うが、やはり不安が拭えない(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年計画
全産業	6.7	2.7(2.7)
製造業	2.5	3.8(4.0)
非製造業	13.3	1.3(1.0)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.1%減、11月は同0.4%減、12月は同0.6%減となった。

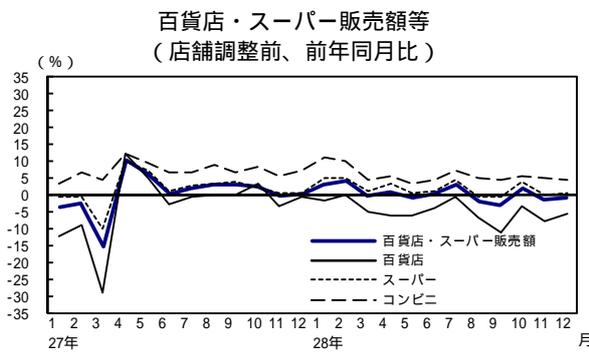
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、秋冬物の衣料品の動きが鈍く、宝飾品などの高額品が振るわなかったこと等から前年を下回った。11月は、衣料品は冬物の動きが鈍かったこと、身の回り品は婦人靴やハンドバッグが振るわなかったこと等から前年を下回った。12月は、婦人服が振るわなかったこと、時計などの高額品の動きも鈍かったこと等から前年を下回った。

スーパーは、10～12月は身の回り品の動きは鈍かったが、総菜や冷凍食品など飲食料品に動きがみられたこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「こんなに客が少なく、販売単価の上がらない12～1月商戦は初めてだ。とにかく街中に人が少ない。地方の景気はかなり悪い(衣料品専門店)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

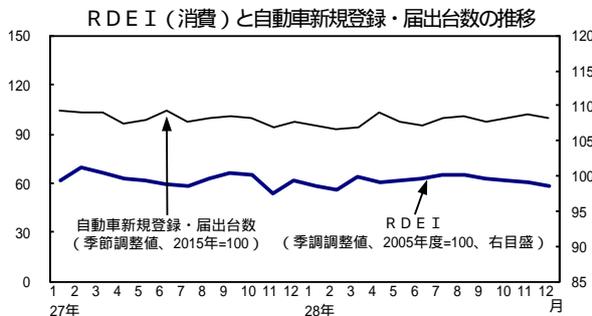


	28年10-12月	28年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.9	0.1	0.4	0.6
百貨店・スーパー(*2)	0.1	2.3	1.5	0.9
百貨店(*2)	5.4	3.3	7.6	5.3
スーパー(*2)	1.4	3.8	0.3	0.5
コンビニ(*2)	5.2	5.9	4.9	4.8
乗用車(*3)	3.8	0.1	9.8	1.9
(季節調整値)(*3)	1.1	2.4	1.7	1.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

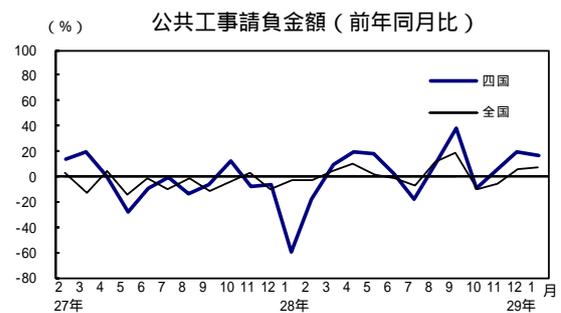
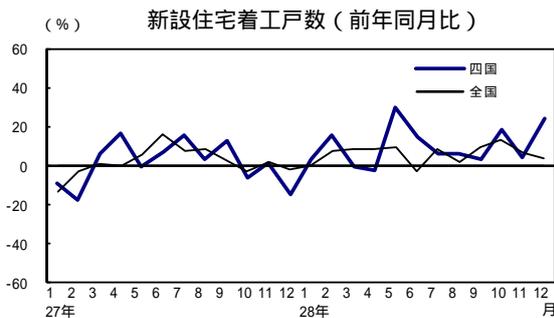
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。



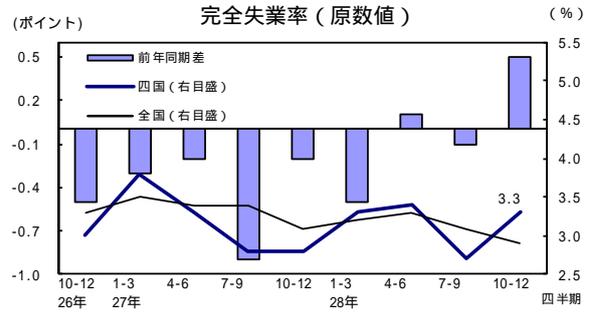
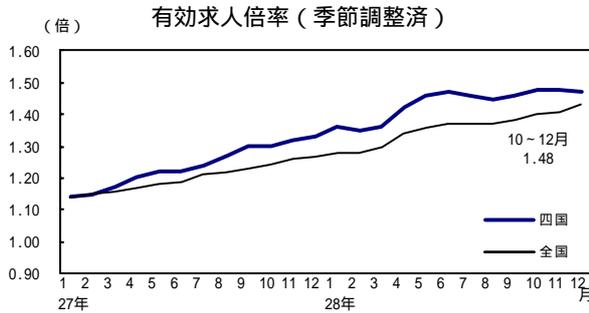
(10) 四国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [雇用関連 (現状)]

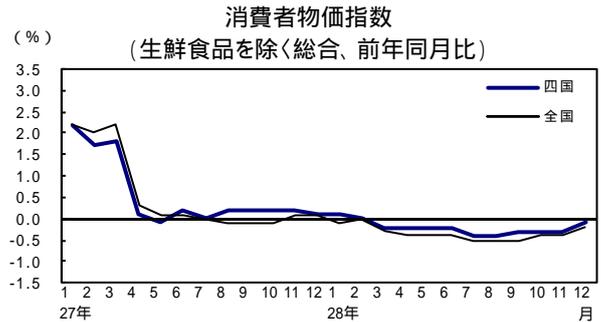
「求人数は高止まりしている。どの企業も人手不足のため求人を出しているが、予定している人員の確保はできていない (求人情報誌)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	29年1月
倒産件数	44	37	38	27	6
(前年比)	22.8	7.5	5.6	42.6	60.0
負債総額	118	102	42	67	3
(前年比)	16.4	69.4	47.8	19.4	94.5



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・値下げしないと売れないが、値下げ分を取り戻すほど客数がついてこない (その他小売 [ショッピングセンター])

<先行き>

・3~4月のテレビ広告受注が上向いている。特に自動車、不動産、情報通信などがけん引している (通信業)

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

